

関東ふれあいの道(栃木)⑫蔵とヤナギとコイのみち(連絡路)

2024年5月17日(金) 池内淑皓

2024年(令6)3月23日(土)お彼岸に入ってもなかなか天候が安定せず、ウォーク日和がなかった。やとわずかな晴れ間を見つけて出かけたが、栃木はみぞれ交じりの寒い一日となった。栃木は蔵の町と云う。江戸時代には米、麻、薪炭等開運業で栄えた。そのわずかな名残が、文化財として残されている



関東ふれあいのみ案内板(東武宇都宮線新栃木駅構内にある)



コース地図(JR 栃木駅から巴波川(うずまがわ)沿いに東に向かい、蔵屋敷を訪ねる)



JR 栃木駅には 9:45 到着、土曜日であるから乗降客も少ない



早速土蔵のお迎えだ。暑かったら、ひんやりした土蔵でのジェラートが、いいね



案内に従って、蔵の町遊歩道に向かう



江戸時代、巴波川(うずまがわ)から船運で江戸まで米、薪炭、織物を運んだ



昔は船が行き来できる幅があったというが、時代と共に川は細っていった



蔵屋敷が並ぶ栃木の中心地、塚田記念館には当時の面影が見学できる



豪壮な蔵が並び



隆盛を極めた時代の船ダンスや、千両箱等が雑多に置いてある



珊瑚のかんざし、べっ甲のかんざし。女将さん達が身に着けたものだろう



庭も素敵な一言、贅を尽くした配石



街道には当時の蔵屋敷が現存し、今でも商売を営んでいる



栃木は戦火を受けなかったから、残った



蔵を結ぶ中庭には、瀟洒な蔵カフェが格好良い



「横山郷土館」(有形文化財)両端を蔵に挟まれた両袖切妻造りの店舗



右手の蔵は、麻を扱う倉。左手の蔵は、銀行の文庫倉という。



麻を煮る釜、皮を剥ぐ 道具



折角だから記念に一枚、パチリ



中には朽ちた土蔵もある



ご時世と言えば、それまでだけれど、町が補助すれば残されるはずだ



栃木は東山道も通り、江戸時代日光へは、例幣使街道の宿場としてもにぎわった



例幣使街道は、にぎやかな国道から離れて、脇道に入ると、



一部の区間ではあるが「伝統的建造物群保存地区」として残されている



電柱はあるけれど、昔ながらの静かな佇まいを保っている



指定地区の中央に代官屋敷(陣屋)がるから、昔が保存されたのだろう



「縣社,神明宮」に寄ってみる。室町時代伊勢神宮の分霊を祀る 祭神:天照大神



ご神体が収まる屋根の千木、10本ある事から、栃木の名の起りとなる



「近龍寺」浄土宗 明治の文豪「山本有三」のお墓がある



「山本有三のお墓」 明治 20 年裕福な呉服商の長男として生まれる 「路傍の石」「真実一路」は有名な小説。



みぞれ交じりの雨も止んで、青空が見えて来たころ、ゴールの東武宇都宮線 新栃木駅に到着した 13:20 分

[参考タイム] JR 栃木駅(9:45)→巴波川散策(途中昼食)→新栃木駅 13:15

この項完

「関東ふれあいの道(栃木)⑬麦笛のみち」に続く